

日本ラカン協会 第32回ワークショップ

「ラカンと犯罪学」

日時：2021年10月31日（日）14:00～18:00

場所：オンライン（要申込）

参加費：無料

提題者：中谷陽二氏（筑波大学名誉教授）

小林芳樹理事（小林心療内科・精神分析室）

司会：牧瀬英幹理事（中部大学）

【概要】

「今日までに神経症が我々に理解されるようになった限りにおいて言うなら、エディプスコンプレクスがあらゆる神経症の核を形成していることを精神分析は確認してきたが、この確認とまったく一致する形で、宗教も、倫理も、社会や芸術もともにエディプスコンプレクスから始まっているのである。諸民族の心の生活をなすこれらの問題が、父との関係という具体的な一つの論点から解決可能となるというのは、私には非常に衝撃的なことであるように思われる。」（『トーテムとタブー』）

エディプスが、父と知らずに父を殺し、母と知らずに母を犯し、自らが開いた裁決の場でそれらの罪を自覚し、追放されるに至ったように、主体はその起源、出自の謎を問う中で、自らを罪ある者として自覚し、出発する。そして、宗教や倫理、社会、芸術などの諸民族の心の生活をなす問題もまた、同様の観点から解決可能であるということ。このようなフロイトが慄きとともに見出した事実を出発点にして、ラカンは精神医学と犯罪学の関係性の再構築を試みた。学位論文『人格との関係からみたパラノイア性精神病』や「パラノイア性犯罪の動機」から「犯罪学における精神分析の機能にむける理論的序説」へと受け継がれていく一連の流れは、ラカン理論の基礎を成すものであるだけでなく、そうした試みの軌跡でもある。

パパン姉妹の犯罪に関する次のようなラカンの言及からは、その軌跡の一端を窺うことができる。「運命の晩、さしせまる処分の不安の中で、二人の姉妹は女主人たちの心像に自分たちの禍の幻影をまぜあわせる。彼女たちが残虐なカドリールへと引きずり込むカップルの中で彼女たちが嫌うのは、彼女たちの苦悩である。彼女たちは、まるでバックカス神の祭尼が去勢でもするように、目をえぐりとる。大昔から人間の不安を形作っている冒瀆的な興味こそが彼女たちを駆り立てるのだが、それは彼女たちが犠牲者を欲する時であり、また彼女たちが、のちにクリスティーヌが裁判官の前で無邪気に《人生の神秘》と名づけることに

なるものを犠牲者のぼっかり開いた傷口の中へ追いつめる時である」。(「パラノイア性犯罪の動機」)

時代の変化に伴い、精神鑑定の在り方や刑事責任能力の捉え方などの、精神医学と犯罪学の関係性の再検討が求められている現在、ラカンが提起した問題に改めて目を向け、問い直すことは重要な意義があると言えるだろう。本ワークショップでは、提題者として、『刑事司法と精神医学—マクノートンから医療観察法』(弘文堂、2013年)や『危険な人間の系譜—選別と排除の思想』(弘文堂、2020年)などの司法精神医学に関する多数の著書を上梓されている中谷陽二氏、『精神分析の名著』(岩波書店、2012年)や『ラカン 患者との対話：症例ジェラルド、エディプスを超えて』(人文書院、2014年)などのラカン派精神分析に関する著書や論文を多数執筆されている小林芳樹理事のお二人をお迎えし、フランスにおける精神医学と犯罪学の関係性の歴史を振り返りつつ、その流れの中でラカンが何を問題として取り上げ、両者の関係性の再構築を促すに至ったかの考察を試みる。

(牧瀬 英幹)

【提題】

「〈ラカン〉以前のラカン—パラノイア研究を中心に」

中谷陽二氏 (筑波大学名誉教授)

ラカンは臨床医として出発した。〈精神分析家ラカン〉以前のラカンの活動は彼の formation を考える上で重要な意味をもつ。神経学の研鑽を経た後、彼の関心はパラノイアという疾患に向かい、1932年に学位論文のかたちで提出された『人格との関係からみたパラノイア性精神病』(宮本・関訳、以下『パラノイア性精神病』)に当時の研究成果が集約されている。本書は『ラカン伝』の著者ルディネスコが「すでに精神分析のテキストでありながら、まだ精神医学の著作」と指摘したように、ラカンの変貌のいわばつなぎ目の性格をもつ。フロイト理論の導入の側面から論じられることが多いが、精神分析に過度に引き寄せて読むと初期ラカンのパラノイア研究の独自性が薄れるのではないだろうか。

本書はパラノイアに関する諸家の学説の総括、“症例エメ”の提示、これらを踏まえた理論的考察という3部から構成される。スタイルとしては医学論文のスタンダードに従っている。フランスとドイツの文献が参照されているが、注目されるのは20世紀初頭にドイツ語圏で展開されたパラノイア問題 (Paranoiafrage) をめぐる諸説が相当な紙幅を費やして解説されていることである。並外れた勉強家ラカンの姿を彷彿とさせ、これのみで第一級のパラノイア学説史と呼ぶに値する。なかでも4人のドイツ語圏の精神医学者が詳しく取り上げられる。精神分裂病概念を提唱し、その症候学に力動的理解を取り入れたプロイラー、了解と説明、人格の発展と病的過程という二項対立のパラダイムを提出したヤスパース、パラノイアの1類型である敏感関係妄想について性格・状況・鍵体験の相互作用を明らかにし

たクレッチマーである。ラカンがとりわけ高く評価しているのはクレペリンの学説である。19世紀の混沌としたパラノイア概念を洗練して疾患分類体系に位置付けたクレペリンは、徐々に発展して揺るぎない妄想体系を構築するパラノイアにおいては人生観全体が根本的な変化をこうむると述べた。

これらの諸説が妄想の本質に関してラカンに与えた示唆は、素質的で静的な体質 (constitution) に代わる、人生途上の体験を媒介とする人格の発展 (développement) の役割である。この視点は幼少期の家族関係に始まるエメの伝記的に掘り下げた症例記述に反映されている。そして、エメの生活史と妄想構造の検討から浮かび上がったのが自罰 (auto-punition) という主題である。女優襲撃という犯罪行為により罰せられる状況が逆説的に妄想の治癒をもたらすという事態が注目された。ラカンはこの“自罰のメカニズム”を説明する上で超自我を始めとする精神分析的概念を援用した。

事実経過から明らかなのは、まずフロイト受容があってパラノイア研究が着手されたのではなく、パラノイア研究の途上でフロイトらの理論が参照されたという事実である。触媒はエメという特異な妄想主題を示すパラノイア患者との出会いであり、背景には1920年代のフランスへの精神分析の導入があった。『パラノイア性精神病』の組み立ては“木に竹を接いだ”とも言えよう。しかし、ドイツ語圏精神医学への濃厚な参照は、単なる通過地点あるいは精神分析家として脱皮したラカンが残した“蟬の抜け殻”とみるには余りにも重い。今回の報告では、複雑なテキストをパーツに分解した上で再構成し、執筆事情および“入院患者エメ”と“主治医ラカン”の関わりの問題を含めて検証する。修行時代のラカンが強い影響を受けたドゥ・クレランボーにも触れたい。

《御略歴》

1947年東京生まれ。麻布高校、東京医科歯科大学医学部を卒業後、同大学神経精神科、千葉刑務所医務部、正慶会栗田病院精神科、東京都精神医学総合研究所を経て1999年より筑波大学社会医学系教授(精神保健学)、2012年より筑波大学名誉教授。日仏医学会名誉会長。現在は都内のクリニックで精神科一般診療に従事。専門は司法精神医学、精神病理学、精神医学史、犯罪学史。特に暴力の精神病理、刑事司法と精神医学の境界、狂気概念の歴史の変遷に関心をもつ。主要著書は『分裂病犯罪研究』(金剛出版)、『精神鑑定の事件史』(中公新書)、『司法精神医学と犯罪病理』(金剛出版)、『刑事司法と精神医学』(弘文堂)、『危険な人間の系譜—選別と排除の思想』(弘文堂)。最近の論文は『ミシェル・フーコーと精神医学—「狂気の歴史」を読み直す』(日仏医学)。平成10年度講談社出版文化賞、平成20年度日本犯罪学会賞を受賞。

「刑事責任能力の諸相」

小林芳樹理事（小林心療内科・精神分析室）

フロイトの無意識概念とともに、黎明期を迎えた犯罪学であったが、やがて公式な精神鑑定が行われるようになると、フランス旧刑法 64 条に則って、責任無能力か完全責任能力かの二分法が際立つようになっていった。「被告人が行為の際に精神異常の状態にあったか、抵抗できない力によって強制されていたとき、重罪も軽罪も存在しない（フランス旧刑法 64 条 1810 年施行）」。ラカンはこの二分法に警鐘を鳴らし、「犯罪学における精神分析の機能にむける理論的序説（1950 年）」において、刑事責任能力の諸相を緻密に見極めることの重要性を説き、主体の弁証法に精通した精神分析家こそ、この責務にふさわしいと述べている。その後、フランス精神医療改革や司法省による批判を経て、1994 年に、旧刑法 64 条は下記のように 122 条として書き換えられた。

「行為の時点で是非の弁別または行為の統御を失わせる精神障害または神経精神障害に罹患していた者は刑事責任を負わない」。「行為の時点で是非の弁別または行為の統御を容許させたか、行為の統御を妨げた精神障害または神経精神障害に罹患していた者は罰せられる。ただし裁判所は刑およびその執行方式を決定するに際してこの事情を考慮する」。約半世紀越しの、ラカン思想の反映である。

日本ラカン協会事務局

連絡先：〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200
中部大学生命健康科学部 55 号館 6 階 牧瀬英幹研究室

E-mail : sljsecretariat@netscape.net